

暮らしを守る家

大震災を経て見直す住まいの価値観



3月11日に起きた東日本大震災は、日本人の住宅観や暮らし方を根本から変える契機となりました。自分の暮らしは自分で守る——人まかせではなく自助の精神で生きるという意識の転換が、今、求められています。

撮影・角田 進 (207~215ページ) スタイルリンク 山田喜美子 (212~215ページ)
取材・文 小森知佳 (207~211ページ) 富部志保子 (212~215ページ)
浦田耕太郎 (216~217ページ)
取材協力 ダイワハウス 三井ホーム (五十音順)



上・宮城県加美郡の田園地帯に二世帯で暮らす米澤さん一家。築70年の茅葺き屋根の住まいは、3年前に耐震改修をしていたため、震度6の揺れにも無傷で耐えました。
右・改修前の米澤邸。

家庭画報

September
KATEIG

九州

旅情溢れる西海道へ

九州新幹線全線開業記念

〔二部〕雄大な自然と旬の食材 博多・由布院・阿蘇・鹿児島
〔一部〕煌めきのびいどろ紀行 長崎・佐賀

千家十職

茶事之美、道具之美

特別茶会 大徳寺玉林院

新連載 いのちの色

染織作家 志村ふくみ・志村洋子



バッグの最高峰に出会う

息をのむほど美しい

秋の旬味で作るおもてなしの酒の肴

トウワールダレジャン・ラセールノルドワイヤン

殿堂レストラシ

魅る、パリの

髪と肌の究極のアンチエイジング
「ヘッドケア」で全身美

別冊付録
〈2011年後半期〉
「名湯のパワースポット」から
運気を上げる「風水インテリア」まで

美しく生きる
招福術

耐震改修を経て東日本大震災に耐えた茅葺きの民家

米澤邸(宮城)



増築を重ねた建物を元の姿に減築

昭和14年建築の茅葺き民家は、昭和44年に増築され本来のプロポーションも失われていました。そこで床面積を約218坪から約174坪に減築して補強。耐震診断で以前は0.44(倒壊する可能性が高い)の評価を、1.12(一定倒壊しない)に改善しました。

太い梁や柱に囲まれた室内で語る建築家の佐々木文彦さん(左)と、米澤真一郎さん。長野・戸隠で修業後、蕎麦店「利藏庵 米澤屋」を開業するための築70年の生家を改修。震災後は、佐々木さんのいる避難所に炊き出しに出かけ、戸隠からも職人が応援に駆けつけたそうです。設計/ササキ設計(佐々木文彦)

被災して気づく、安心・快適な家づくりの真髄

宮城県仙台市街から車で一時間ほど北上した田園地帯。三月十一日の東日本大震災で震度六の揺れに見舞われたこの一帯は、陥没した道路やビニールシートをかいた家が、地震の爪痕を物語っています。「耐震改修をしていなければ、大きな被害を受けていたはず」と話すのは米澤真一郎さん。築七〇年の茅葺き屋根の住まいは、床がたわみ、雨漏りに悩まされるほど老朽化していたものの「先祖が残してくれた家を、残したい」と、蕎麦店の開業に合わせて二世帯で暮らす店舗併用住宅に改修しました。手がけたのは、石巻市を拠点に活躍する建築家の佐々木文彦さんです。



佐々木さんの事務所兼住宅は、浜辺に近い三階建て。地震の翌朝、がれきをかき分け辿り着くと、一階のコンクリート造を残し、二階と三階の住居部分は跡形もなく津波で流されてしまった(右下写真)。幸い家族は無事でしたが、震災後は避難所での生活を余儀なくされました。「長年蓄積したデータや資料のすべてを

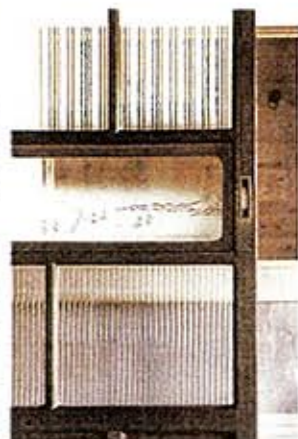
一瞬にして失いましたが、津波に流された二軒を除き、手がけた物件の多くが無事だったことが唯一の救いでした」

東北全域に点在する物件は、新築や改修を含め約五〇軒以上。なかには築一〇〇年を超える古民家もありましたが、簡単な補修程度の被害ですんだそう。それも、常に安全性と居住性を両立させる佐々木さんの設計手法の成果。米澤邸では耐震診断士に依頼して耐震診断を行ったうえでプランを立て、室内に耐力壁を追加するとともに、ジャッキアップして腐朽していた床下を補修し、玉石基礎からベタ基礎に変えて強固な構造にしました。「被災して、これまでの家づくりは間違っていたのかな」と確信できました。地域の木材を使って、美しくも安らげる住まいをつくる。新建材に頼らない家づくりは、震災後ますます再開でき、職人の手技と自然素材で丁寧につくる家こそ、本来あるべき手法だと感じました。

「いつか必ず元の場所を再建して、美しい三陸の故郷を取り戻したい」そう語る佐々木さんの目は静かに、しかし力強く輝いていました。

既存の建具を再利用して建をそのままに

以前、台所と居間の間仕切りとして使われていたガラスの建具を再利用。昔ながらの波板ガラスや摺り模様、そのままインテリアのアクセントに。このほか縁側の床板を撤したりと、従来の部材を利用。以前の住まいの趣を残しながら見事に再生しました。



耐力壁を加えて頑丈な構造をつくる

右・床の間は以前と同じ場所ですが、筋交いと構造用合板で耐力壁(地震や風など水平荷重に抵抗する能力を持った壁)にして強化。北上川の葦を原料に使った障子越しの光が美しい。左・テーブルの手前の壁と柱は、耐震診断に基づいて新設したもの。さらに「壁を支えるためには土台が必要」と、土台をベタ基礎と呼ばれるコンクリート造に変えました。



耐震補強して100年後も安心・快適に暮らせる住まいに

茅葺き屋根の美しさを堪能できるよう、室内は吹き抜けに。壁に断熱材を入れ、窓にペアガラスを採用して断熱と気密性をアップ。冬の寒さが苦にならないほど温かく過ごせるようになりました。